



令和、 残していきたい思い

学 園 長 小 島 澄 人

40年、毎月保護者の皆さんに幼稚園の思い、園長の日頃考えていることの一部を綴り続けてきました。園便りの最初にその気持ちを載せて来ましたが、今後もその気持ちがあります。いろんなことが耳に入ります。「皆さんにメール配信したら」、「年賀状、長々と書いていたら読まないから必要ないかも」、「幼稚園の便りもメール配信したら」・・・。

冒頭から皆さんへの問いかけで始まりました。文を書かなくなった、本を読まなくなった、とよく言われています。確かに、書籍を読まなくても辞典を捲らなくても、スマホですぐ出てきます。いまだにスマホでない私は、携帯との別れを惜しんでいます。「携帯」、本当に有り難いものでした。きっと「スマホ」もそうに違いない。けど、携帯を握りしめている自分に驚いている。令和の時代には「新しいものは新しい革袋に」、と言われるが、私にも「新しい革袋」が必要なのか、自分の存在感、その必要性、令和の時代も幼児教育に関わっていいのか、本当に自分に問いかける毎日です。

「園長先生のと、誰でも出来るようなシステムに変えていかななくてはいけない」、確かにそうかも知れない、けど、ずん、何か重いものが・・・、体が動かなくなりました。自分の「思い」をしっかり発信、自分の言葉で、けど保護者の皆さんに「私の長い話、迷惑では」、「園長先生の話聞いて良かった」とも言われたりもするが、それでも遠慮してかなり少なくなりました。自分の思いを文字で伝える、そのこだわりを捨てれば「メール配信」も同じかも知れない。

「手作り」「自然」「労作」「汗を流す」「どろんこになっても」「原体験」「原風景」・・・、私の大切にしてきた、大切にしかかったことを残していきたい。教職員の働き方改革、「改革」、聞こえはいいが、「古き良きもの」は残していきたい。「改革と残す」、その調和をとことん考える冬休みにしたい。

園長の日頃の思いを教職員に伝える、できる限り毎日のように時間をとっては来ても、「働き方改革」では、週に1度で充分ではと言われると、また思いを伝える場が減っていく。寂しい。

「公開誌上討論」とはいかなくても、私に文面でも、言葉でもいいです、ご意見ご感想をください。何でも結構です。

幸せで、幸多き年となりますように。

素敵な年をお迎えください。

